

法人名:株式会社SEIWA GLOBAL

事業所名:はぐみクラブ(児童発達支援/放課後等デイサービス)

## 「導入ICT機器名」導入による生産性の向上

### 課題

業務支援ソフトを使用して一部の業務を行っているが、作業機器の不足により、作業効率が著しく低い状況であった。機器をスタッフが順番に使用して、支援記録を作成したり、支援のメモを一度紙媒体で行った後にパソコンに転記したりと、業務時間を効率よく使用できていなかった。また、業務支援ソフトを環境不備により一部業務でしか活用できていないため、業務支援ソフトが活用できる環境を整え、業務の大部分をICT環境で行えるようにする必要があった。

### 導入機器

PC:6台  
携帯:4台  
タブレット:3台  
インカム:5台1式  
Wifi:1台

### 機器導入

### 成果

#### ①業務上の質の向上

- ・書類作成業務時間の短縮。それに伴い、療育教材作成時間の増加、支援のための学習時間の確保など、療育の質向上のための時間が確保できた。
- ・タイムラグのない情報伝達が職員全員に可能になり、伝達ミスの減少、児童への安全性の向上につながった。
- ・紙媒体の削減
- ・情報の一元管理化により、業務効率が向上した。
- ・情報を常に複数人で確認できるようになり、ミスの減少、事業所運営の透明性につながった。
- ・業務効率アップによる働きやすい環境の整備、学習機会の増加による従業員のスキルアップ

#### ②量的な効率化

年間業務時間数削減率(%):64.0%  
年間作成文書量削減率(%):75.0%

## ICT機器等を導入した業務内容(概要)

業務支援ソフトを活用するため、スタッフ全員に作業用機器(パソコン又はタブレット、携帯端末)を準備し、紙媒体が生じない作業環境とした。業務支援ソフトでは、出欠確認、支援記録の作成、送迎管理、保護者連絡、個別支援計画の作成、受給者証管理、個人情報の管理、スタッフ同士の情報共有を行った。また、パソコンを使い、職員の出勤管理や出納管理等、バックヤード作業を紙媒体なしで出来るように体制を整えた。

ICT機器の導入により、各種マニュアルや連絡事項、研修資料を、パソコン又はタブレット、携帯端末でいつでも閲覧できる環境を構築した。また連絡事項については、閲覧後に閲覧者が確認チェックを入れるなど確認の有無を明確とし、連絡漏れがないような体制とした。

インカムは、支援者と事務方の情報共有をラグタイムなくスムーズに行うために使用した。紙媒体での連絡を減少させ、一度に複数人と正しい情報を共有することが可能になった。チームでの動きをスムーズにし、作業効率が上がり、支援の質が向上した。

この度のICT環境の整備のため、wifi環境を整えることが非常に重要なため、機器台数に合わせたwifiルーターを導入した。

## 事業所におけるICT機器等導入の推進方法

事業所の立ち上げ時より、支援ソフトの導入を行い、請求管理、支援記録などのICT化を進めていたが、予算不足により十分な機器を購入できず、効率よく業務を行えていなかった。この度の補助により、業務環境が整い、業務効率が大幅に改善した。導入にあたり「障がい福祉サービス事業所のICTを活用した業務改善」の研修内容の社内共有を行った。社内の反応としては、機器やソフトが導入され、業務がしやすくなることだけだと思っていたが、ICT化に向けてセキュリティなど新たに気をつけなければならない点があること、体制を構築していくことが大切であることなど、考えていなかった部分を研修で知ることができたとの感想が多かった。情報保護について、ICTに合わせた注意点をまとめる必要があるという意見があったり、新しい社員が入ってきた場合の研修をどうしていくかなど、意見を生かしながら、現在体制を整えています。